

平成28年度事業報告書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

1. バドミントンの普及及び指導

(1)ジュニアに対する普及・指導活動の充実と社会人愛好者の組織づくりへの助成活動を進め、会員の拡大を図り286,034名の会員を得て、30万人の目標に近づいた。

(2)第25回全国小学生バドミントン選手権大会

12月23日から12月27日までの5日間、滋賀県立体育館他1会場で役員延1,693名の指導により、男子の部団体49団体、女子の部団体49団体、6年生以下男子単42名、同複34組、女子単42名、同複34組、5年生以下男子単36名、同複34組、女子単36名、同複34組、4年生以下男子単34名、同複34組、女子単34名、同複34組、実人員632名の参加で開催。優勝者は男子団体愛知県、女子団体南北海道、6年生以下男子単池田真那斗(香川県)、同複相澤大智・矢田楓雅組(新潟県)、同女子単吉川天乃(岡山県)、同複岩西真那・藤田美咲組(東京都)、5年生以下男子単沖本優大(広島県)、同野口駿平・柳川瑠生組(東京都)、同女子単岩戸和音(北北海道)、同複竹本千穂・堀小雪組(岡山県)、4年生以下男子単松川健太(神奈川県)、同複勝又翔哉・勝又悠翔組(静岡県)、同女子単樋口吹羽(徳島県)、同複中野真理・鈴木あいら組(千葉県)で、導入期の少年に正しい競技を習得させるとともに、少年層の普及に成果を収めた。

(3)第17回全国小学生ABCバドミントン大会

8月15日から8月17日までの3日間、久喜市総合体育館他1会場で、役員延784名の指導により、男子Aグループ61名、同Bグループ53名、同Cグループ48名、女子Aグループ61名、同Bグループ53名、同Cグループ49名、実人員325名の参加で開催。優勝者は男子Aグループ池田真那斗(香川県)、同Bグループ松川健大(神奈川県)、同Cグループ山脇弘奨(愛知県)、女子Aグループ明地陽菜(大阪府)、同Bグループ横内美音(山梨県)、同Cグループ永渕友梨華(佐賀県)で、導入期の少年に正しい競技を習得させるとともに、少年層の普及に成果を収めた。

(4)第15回日本バドミントンジュニアグランプリ2016

平成28年11月25日から11月27日までの3日間、仙台市の支援を受けカメイアリーナ仙台(仙台市体育館)他1会場で、役員延545名の指導により、男子の部40団体、女子の部40団体、実人員626名の参加で開催。優勝者は男子団体埼玉県、女子団体埼玉県で、全国各都道府県ジュニア選手育成の一貫指導体制の確立促進を図るとともに、ジュニア層への普及に大きな成果を収めた。

(5)第32回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

7月29日から8月1日までの4日間、長岡京市西山公園体育館で、役員延893名の指導により、男子の部37都道府県48チーム、女子の部37都道府県48チーム、実人員900名の参加で開催。優勝者は男子の部小平ジュニア(東京都)、女子の部ミッキーズ(岡山県)で、少年少女相互の交流と体力の増強と健全で豊かなスポーツの育成に効果を挙げた。

(6)第46回全国中学校バドミントン大会

8月17日から8月20日までの4日間金沢市総合体育館で、役員延620名の指導により学校対抗男子24校、女子24校、男子単36名、同複36組、女子単36名、同複36組、実人員445名の参加で開催。優勝者は学校対抗男子青森市立浪岡中学校(青森県)、同女子猪苗代市立猪苗代中学校(福島県)、男子単奈良岡功大(浪岡中・青森県)、同複樋口輝・百上拓海組(埼玉栄中・埼玉県)、女子単染谷菜々美(猪苗代中・福島県)、同複鈴木陽向・大澤佳歩組(埼玉栄中・埼玉県)で、全国中体連との共催で中学生に正しい技術を習得させることができた。

(7)第17回全日本中学生バドミントン選手権大会

平成29年3月25日から3月27日までの3日間、岡山市総合文化体育館で、役員100名の指導により、都道府県対抗男女混合団体49チーム、実人員515名の参加で開催。福島県が優勝し、中学生の健全育成に寄与することができた。

(8)第45回全国高等学校選抜バドミントン大会

平成29年3月22日から3月26日までの5日間、豊田市総合体育館他2会場で、役員延1,004名の指導により、学校対抗男子53校、女子54校、実人員781名の参加で開催。優勝者は学校対抗男子ふたば未来学園高校(福島県)、同女子ふたば未来学園高校(福島県)、男子単大林拓真(埼玉栄高校)、同複金子真大・久保田友之祐組(ふたば未来学園高校)、女子単鈴木ゆうき(聖ウルスラ学院英智高校)、同複森沙耶・石村亜美組(青森山田高校)で、それぞれ高校生の交流と技術の習得に大きな成果を収めた。また、地区予選会を支援した。

(9)第34回全日本レディースバドミントン選手権大会

7月28日から7月31日までの4日間、都道府県対抗の部は、高知県立県民体育館会場で、40都道府県41チーム、実人員435名の参加で開催。優勝者は愛知県。また、クラブ対抗の部は同日南国市立スポーツセンター会場で、38都道府県51チーム、537名の参加で開催。あい CLUB(大阪府)が優勝し、レディースへの普及と正しい競技の習得に大きな成果を収めた。役員延582名。

(10)第11回全日本レディース(個人戦)バドミントン競技大会

12月9日から12月11日までの3日間、千葉ポートアリーナ体育館他3会場で、ダブルス個人戦で実施し、43都道府県、実人員1,056名の参加で開催。優勝者は1部稲川恵里菜・水野愛実組(岐阜県)、2部Aブロック林恵未・麻生祐花組(福岡県)、2部Bブロック関根尚子・野村明子組(千葉県)、2部Cブロック物井あゆみ・中津位江組(神奈川県)、2部Dブロック森知美・羽生美恵組(茨城県)、2部Eブロック高垣尚美・大東恵里子組(兵庫県)、2部Fブロック門間由美子・間瀬孝子組(愛知県)、2部Gブロック梯栄子・市田礼子組(東京都)、2部Hブロック松本美津江・内野とし子組(埼玉県)、2部Iブロック土庵清子・石井伸子組(奈良県・山口県)でレディースへの普及と発展に成果を収めた。役員延664名。

(11)用器具検査並びに認定

厳正なる検査の結果、第1種水鳥シャトル31種(20社)、第2種水鳥シャトル10種(10社)、ラインテープ5種(4社)、ラケット149種(17社)、検定工場18社、ネット25種(8社)、ストリングス42種(7社)、シューズ56種(10社)、ウェア578種(15社)を認定し、愛好者の使用の便を図った。

(12) 競技規則書等発行

各都道府県協会並びに7連盟で開催する審判講習会・検定会等でルール周知徹底を図るため2016-2017年競技規則(赤本)・ルール教本(2016年版3級・準3級公認審判員資格検定ルール教本「緑本」)を発行し、常に新しい競技規則等の正確な資料を提出し、正しいルールに基づく円滑な試合運営と公認審判員有資格者の増員と資質の向上を図った。

(13) 庶務業務の活性化

加盟団体事務局長会議を開催し、都道府県協会・全国7連盟の業務統一化と活性化を図った。

(14) 広報活動

HPを活用しての迅速かつ正確な情報公開と広報活動及びマスメディアに対して適時な情報、資料等を積極的に提供することにより、テレビ、新聞等の露出数が増大しPR効果を拡大し、バドミントン競技をより多くの人に理解を広めた。また、ジュニア選手層の開発に向けて、告知ポスター等を作製、全国に配布し、会員、愛好者の拡大を図った。

(15) 学連助成

学連の活動に対して、助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(16) 高体連助成

高体連の活動に対して、助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(17) 中体連助成

中体連の活動に対して、助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(18) 小学生助成

小学生連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図った。

(19) 小・中・高一貫指導

「世界で戦える競技者」育成のため、各都道府県協会に小・中・高の一貫指導体制の構築を推進し、ジュニアの育成・強化を実施した。

(20) 指導教本

バドミントン教本ジュニア編発行から12年経過したことから、更にジュニアのレベルアップを図るため改訂版を作成した。

2. バドミントンに関する審判員及び指導員の養成及び資格の認定

(1) 公認レフェリー資格者の本会第1種大会への派遣

公認A級・B級のレフェリー有資格者を平成28年度実施の全ての第1種大会(23大会)にレフェリー及びディピュティーレフェリーとして派遣し、大会運営全般の統一性と公正化を図った。また、B級レフェリー検定会を実施し11名全員が合格した。

(2) 公認審判員養成講習会開催

審判員技術の向上と正しい競技規則の習得により円滑な大会運営を図るため公認審判員制度を設け、1級審判員検定会を本会が主催し、2級、3級、準3級審判員資格検定会は、地区及び都道府県、7連盟が主催し開催された。検定会は本会公認審判員資格審査認定員が担当した。

(3) 公認審判員の資格認定登録

公認審判員資格登録規程による学科試験、実技試験の合格者を各級公認審判員に認定し、登録させ、各地で実施する大会において正義と公正に基づく円滑な競技会運営を図った。公認審判員資格登録規程に定める資格取得試験に合格した者は、1級29名、2級114名、3級4,268名、準3級9,240名、準3級から3級への特別移行者は863名で、それぞれが資格登録も完了した。また同規程により、1級334名、2級499名、3級9,090名の有資格者が資格更新登録をした。こうした正しい競技規則の習得や審判技術のマスターは、更なるバドミントン技術の資質向上に役立ち、また、全国の数々の大会においてその審判能力は、大会運営において大きな効果を挙げた。

(4) 国際審判員資格取得試験受講者の養成と国際審判員資格既得者の研修及び活動

本年も、年に一度の Badminton Asia 認定国際審判員養成セミナーを9月19日から21日まで、東京都(ヨネックスオープンジャパン2016開催時)において開催した。参加者は2名であった。また、資格既得者の研修・活動として国際審判員相互派遣交流大会であるマレーシアオープン、シンガポールオープン、チャーニーズタイペイオープン、韓国オープン、中国オープンに国際審判員を派遣した。また、BWF、Badminton Asia の指名により国際レフェリー、国際審判員、国際線審を多数の国際大会へ派遣した。これらの派遣事業は国際交流事業に大いに貢献した。

(5) 公認スポーツ指導者養成講習会

公益財団法人日本体育協会と共催して、公認コーチ(バドミントン2級)の養成講習会を10月に前期4日間(ツネイシしまなみビレッジ29名)、平成29年1月に後期4日間(埼玉県国立女性教育会館21名)で開催した。

また、公認上級コーチ(バドミントン1級)の養成講習会(再試験)を8月に実施した。公認コーチ30名(内過年度分12名)、上級コーチ2名(内過年度分2名)が専門科目検定試験に合格したことを公益財団法人日本体育協会へ報告した。また、各都道府県バドミントン協会が各々の体育協会と共催で実施する公認スポーツ指導者養成講習会は、公認上級指導員(バドミントン3級)を東京都・奈良県、公認指導員(バドミントン4級)を北海道ほか計11県で開催した。

(6) 公認スポーツ指導者の資格更新のための義務研修会

指導者資格認定制度に登録された各スポーツ指導者の登録更新のために、4年間に1回受けなければならない義務研修会を実施した。公認上級コーチ、コーチの義務研修会は、10月(味の素ナショナルトレーニングセンター38名2日間)および平成29年1月(埼玉県国立女性教育会館32名2日間)に開催した。最新の情報を得ることや、コーチとしての資質の向上を図りながらコーチ間の連帯を深めた。また、27都道府県協会(延32回)で、公認スポーツ上級指導員・指導員のための義務研修会が実施され、指導者としての資質の向上を図った。なお、公認上級コーチ、コーチの義務研修会受講者および各都道府県バドミントン協会から報告のあった公認上級指導員、指導員の義務研修会受講者名を、公益財団法人日本体育協会へ報告した。

(7) 公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会

8月27日・28日味の素ナショナルトレーニングセンターにおいて、38名の参加で開催した。

3. 公益財団法人日本体育協会、世界バドミントン連盟(BWF)及びアジアバドミントン連盟(Badminton Asia)への加盟

(1) 公益財団法人日本体育協会等への代表者派遣

公益財団法人日本体育協会、JOCへ代表者を派遣するとともにその事業に対し、協調、展開し、バドミントン競技の発展を図った。

(2) BWF(世界連盟)総会への代表者派遣

銭谷欽治(専務理事)・高橋英夫(国際部長)・近藤繁(国際部員)を5月21日、昆山市(中国)で開催されたBWF年次総会に派遣し、国際スポーツ振興のため協調し、世界バドミントン競技の発展を図った。

(3) Badminton Asia(アジア連盟)総会等への代表者派遣

銭谷欽治(専務理事)・高橋英夫(国際部長)・近藤繁(国際部員)を5月19日に昆山市(中国)で開催されたBadminton Asia 年次総会に派遣し、アジアスポーツ振興のため協調し、アジアバドミントン競技の発展を図った。

4. バドミントンに関する国内競技会の開催

(1) 第66回全日本実業団バドミントン選手権福井大会

6月29日から7月3日までの5日間、勝山市体育館ジオアリーナ他計2会場で、男子団体160団体、女子団体42団体、実人員2,598名(男子2,122名、女子476名)の参加で開催。優勝者は男子団体トナミ運輸(富山)、女子団体再春館製薬所(熊本)、競技役員延343名。

(2) 第67回全国高等学校バドミントン選手権大会

平成28年8月7日から8月12日までの6日間、ジップアリーナ岡山他2会場で、男子団体49団体、女子団体49団体、男子単98名、同複98組、女子単98名、同複98組、実人員990名の参加で開催。優勝者は男子団体埼玉栄高校(埼玉)、女子団体富岡ふたば未来学園高校(福島)、男子単山澤直貴(富岡ふたば未来学園高校)、同複渡邊航貴・仁平澄也組(埼玉栄高校)、女子単仁平菜月(富岡ふたば未来学園高校)、同複川島美南・上杉夏美組(埼玉栄高校)、競技役員延1100名。

(3) 第4回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会

8月15日・16日の両日、大田区総合体育館で、実人員138名の参加で開催。優勝者は五十嵐優・安田美空組(中央大学・筑波大学)、競技役員延62名。

(4) 第55回全日本教職員バドミントン選手権大会

8月11日から8月15日までの5日間、コココーラウエストスポーツパーク体育館他2会場で、男子団体18団体、女子団体9団体、男子成壮年団体17団体、女子成壮年団体5団体、一般男子単93名、同複58組、一般女子単33名、同複29組、30才以上男子単45名、同複31組、30才以上女子単8名、同複6組、40才以上男子単5

6名、同複29組、40才以上女子単10名、同複8組、50才以上男子単64名、同複41組、50才以上女子単16名、同複10組、60才以上男子単21名、同複15組、65才以上男子単14名、同複7組、70才以上男子単12名、同複6組、の参加で開催。優勝者は男子団体鳥取県A、女子団体石川県、男子成壮年団体福島県、女子成壮年団体熊本県、一般男子単山口公洋(京都)、同複小林寛哉・青木洋組(鳥取)、一般女子単佐伯幸那(岡山)、同複野村このみ・山本しずか組(兵庫)、30才以上男子単佐藤伴哉(青森)、同複清水隆志・出石哲也組(鳥取)、30才以上女子橋本麻衣子(熊本)、同複中島小巻・福井奈美組(熊本)、40才以上男子単桐原健(熊本)、同複平岡篤司・千田宏之組(奈良)、40才以上女子単橋本仁美(香川)、同複坂崎美奈子・木下八枝子組(熊本)、50才以上男子単川島康行(千葉)、同複福田光博組(山口)、50才以上女子単谷藤千香(千葉)、同複早田彰子・前田美恵子組(熊本)、60才以上男子単福田光博(山口)、同複岩下元行・田代昌昭組(熊本)、65才以上男子単逸見寛二(愛媛)、同複平井克英・近藤良二組(東京)、70才以上男子単廣田彰(宮崎)、同複黒崎二男・宮崎茂樹組(神奈川)、競技役員延439名。

(5) 第18回全国高等学校定時制通信制バドミントン大会

8月17日から8月20日までの4日間、小田原アリーナで、男子団体47団体、女子団体44団体、男子単97名、女子単95名、実人員542名の参加で開催。優勝者は男子団体長崎県、女子団体奈良県、男子単住徳聖也(長崎)、女子単二宮花子(奈良)、競技役員延250名。

(6) 第40回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会

8月20日・21日両日、高岡市民体育館アリーナで、男子団体16校、女子団体16校、男子単16名、同複16組、女子単16名、同複16組、実人員339名の参加で開催。優勝者は男子団体釧路高専、女子団体熊本高専八代キャンパス、男子単生本和規(米子高専)、同複斉木勇志・清水一平組(北九州高専)、女子単楠城由佳(北九州高専)、同複池田真子・中野三恵子組(富山高専射水キャンパス)、競技役員延201名。

(7) 第59回全日本社会人バドミントン選手権大会

9月2日から9月7日までの6日間、一宮市総合体育館で、男子単387名、同複295組、女子単113名、同複152組、同混合複162組、実人員1048名の参加で開催。優勝者は男子単坂井一将(東京)、同複遠藤大由・渡辺勇大組(東京)、女子単鈴木温子(東京)、同複福島由紀・廣田彩花組(熊本)、混合複渡辺勇大・東野有紗組(東京)、競技役員延623名。

(8) 第35回全日本ジュニアバドミントン選手権大会

9月16日から9月19日までの4日間、愛媛県総合運動公園体育館他2会場で、ジュニアの部男子単80名、同複58組、女子単78名、同複54組、ジュニア新人の部男子単109名、同女子単110名、実人員601名の参加で開催。優勝者は男子単奈良岡功大(青森)、同複金子真大・久保田友之祐組(福島)、女子単高橋明日香(福島)、同複永井瀬琴・水井ひらり組(福島)、新人男子単山下啓輔(福島)、同女子単郡司莉子(神奈川)、競技役員延750名。

(9) バドミントンS/Jリーグ2016

11月5日から平成29年2月12日までの13日間、北海道立総合体育センター他16会場で、男子8チーム、女子8チーム、実人員154名の参加で開催。優勝者は男子トナミ運輸(富山)、女子再春館製薬所(熊本)、競技役員延1,320名。

(10)第67回全日本学生バドミントン選手権大会

10月14日から10月20日までの7日間、千葉ポートアリーナ他千葉公園体育館、葛飾区水元スポーツセンター体育館で、男子団体32団体、女子団体32団体、男子単105名、同複101組、女子単101名、同複99組、実人員805名の参加で開催。優勝者は男子団体中央大学(東京)、女子団体筑波大学(茨城)、男子単五十嵐優(中央大学)、同複松居圭一郎・玉手勝輝組(日本体育大学)、女子単下田菜都美(龍谷大学)、同複宮浦玲奈・勝俣莉里香組(法政大学)、競技役員延920名。

(11)第32回全日本シニアバドミントン選手権大会

11月12日から11月14日までの3日間、エスフォルタアリーナ八王子体育館他8会場で、30才以上男子単157名、同複129組、30才以上女子単34名、同複56組、30才以上混合複80組、35才以上男子単144名、同複104組、35才以上女子単30名、同女子複59組、35才以上混合複65組、40才以上男子単136名、同複123組、40才以上女子単51名、同複93組、40才以上混合複110組、45才以上男子単131名、同複111組、45才以上女子単51名、同複98組、45才以上混合複109組、50才以上男子単100名、同複95組、50才以上女子単53名、同複91組、50才以上混合複92組、55才以上男子単91名、同複92組、55才以上女子単36名、同複60組、55才以上混合複84組、60才以上男子単81名、同複80組、60才以上女子単32名、同複52組、60才以上混合複64組、65才以上男子単88名、同複71組、65才以上女子単24名、同複40組、65才以上混合複37組、70才以上男子単51名、同複38組、70才以上女子単23名、同複26組、70才以上混合複27組、75才以上男子単28名、同複24組、75才以上女子単10名、同複15組、75才以上混合複21組、延べ5,643名の参加で開催。30才以上男子単井上知也(東京)、同複竹川慶二・吉本尚弘組(香川)、30才以上女子単大條亜津紗(愛媛)、同複益子友美・吉川美穂組(茨城・福岡)、30才以上混合複五島雄一郎・小田原恵美組(福岡)、35才以上男子単花本大地(鳥取)、同複本沢豊・白垣賢一組(神奈川)、35才以上女子単大石瞳(福岡)、同複大石瞳・松本里衣組(福岡)、35才以上混合複鈴木利之・石田麻依組(神奈川・東京)、40才以上男子単藤本ホセマリ(東京)、同複山下大介・古川勝也組(佐賀・長崎)、40才以上女子単松田奈緒子(石川)、同複片山さおり・浅沼優子組(埼玉)、40才以上混合複磯貝謙太郎・加藤千里組(愛知)、45才以上男子単青木真也(千葉)、同複濱路圭・和久井伸一組(神奈川)、45才以上女子単横手智江美(岩手)、同複金子正子・田村富士美組(福岡)、45才以上混合複興石努・桑田和加子組(山梨・熊本)、50才以上男子単東太朗(三重)、同複新井光寿・橋場孝啓組(北海道)、50才以上女子単櫛山久美子(北海道)、同複谷藤千香・竹田由美子組(千葉・大阪)、50才以上混合複宗形一志・平兮章子組(東京)、55才以上男子単渡辺勝浩(栃木)、同複末坂進・神代和久組(富山)、55才以上女子単菊地葉子(東京)、同複上田佳代子・今津裕美組(東京・埼玉)、55才以上混合複高野一男・今津裕美組(福井・埼玉)、60才以上男子単池田隆治(東京)、同複佐野明彦・芹沢英彦組(静岡)、60才以上女子単新田豊子(香川)、同複今泉静子・竹林佐代子組(富山・香川)、60才以上混合複高岡桂・太田清子組(福井・静岡)、65才以上男子単青山伸幸(愛知)、同複油野徳公・山本秀夫組(石川)、65才以上女子単山川美佐江(福島)、同複浅越治子・室田光枝組(埼玉)、65才以上混合複高橋栄一・竹田かずみ組(埼玉・山梨)、70才以上男子単松井秋男(東京)、同複松井秋男・渡辺直人組(東京・神奈川)、70才以上女子単藤原三和(神奈川)、同複土庵清子・石井伸子組(奈良・山口)、70才以上混合複殿川宣勝・篠原まさ子組(東京)、75才以上男子単田中康二(千葉)、同複小山包博・小川昌之組(神奈川)、75才以上女子単西田ヨシ江(神奈川)、同複鈴木八重子・松木三枝子組(東京)、75才以上混合複芝崎侑司・田中静子組(沖縄・埼玉)、競技役員延1,856名。

(12)平成28年度第70回全日本総合バドミントン選手権大会

11月28日から12月4日までの7日間、国立代々木競技場第二体育館で男子単46名、同複46組、女子単50名、同複47組、混合複36組、実人員354名の参加で開催。優勝者は男子単西本拳太(東京)、同複園田啓悟・嘉村健士組(富山)、女子単佐藤冴香(東京)、同複高橋礼華・松友美佐紀組(東京)、混合複嘉村健士・米元小春組(富山・秋田)、競技役員延913名。

(13)日本マスターズ2016バドミントン競技会

公益財団法人日本体育協会等との共催事業で、9月24日から9月26日までの3日間、美郷町総合体育館で、男子22都道府県、女子21都道府県でのリーグ戦を勝ち抜いたチームによるトーナメント戦で実施。実人員314名の参加で開催。優勝者は男子東京都、女子愛知県、競技役員延420名。

(14)第71回国民体育大会バドミントン競技会

公益財団法人日本体育協会等との共催事業で、10月2日から10月5日までの4日間、北上総合運動公園北上総合体育館で、成年男子32団体、成年女子16団体、少年男子16団体、少年女子47団体、実人員444名の参加で開催。優勝者は成年男子の部富山県、成年女子の部熊本県、少年男子の部福島県、少年女子の部福島県、競技役員延1,408名。

5. バドミントンに関する国際競技会

(1)ヨネックスオープンジャパン2016

9月20日から9月25日までの6日間東京体育館で、男子単44名、同複38組、女子単44名、同複29組、混合複39組、実人員265名(日本選手101名、外国選手164名)の参加で開催。優勝者は男子単リーチョンウェイ(マレーシア)、同複リージュンホウイ・リュウチェン組(中国)、女子単ヘビンジャオ(中国)、同複クリスティナペダセン・カミラリターユール組(デンマーク)、同混合複ジェンシーウェイ・チェンチンチェン組(中国)、競技役員延1,322名。

(2)ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2016

10月26日から10月30日までの5日間、エディオンアリーナ(大阪府立体育会館)他2会場で、海外9ヶ国を迎え、トーナメント戦で実施し、243チーム実人員1,745名(日本選手1512名・外国選手233名)の参加で開催。優勝者はAゾーン岐阜トリッキーパンダース(岐阜県)、Bゾーン Chinese Taipei A (TPE)、Cゾーンバーバママ(香川県)、Dゾーン泉ヶ丘A(大阪府)、Eゾーン Friend's Club (HKG)、Fゾーン千葉県A(千葉県)、Gゾーンきらり東京(東京都)、Hゾーンフラワーズ(東京都)が優勝し、国際親善への普及と発展に成果を収めた。競技役員延569名。

(3)日・韓高校生交流競技会

12月12日から17日までの6日間、味の素ナショナルトレーニングセンターで、団長長谷川博幸他役員5名、男女各8名、計22名。韓国監督 KIM Hak Kyun他役員3名、男女各8名を迎え開催。成績は男子団体戦2勝1分。女子団体戦3勝。

6. バドミントンに関する国際大会への代表者の選考及び派遣

(1) 第29回世界男子バドミントン選手権大会(トマス杯)大会及び第26回世界女子バドミントン選手権大会(ユーバー杯)

5月12日から23日までの12日間、中国・昆山市へ団長上松芳則他役員7名選手男女各10名、計28名を派遣。成績は女子銅メダル。

(2) 日・韓高校生交流競技会

5月17日から22日までの6日間、大韓民国、済州市へ団長明神憲一他役員2名、選手男女各8名、計19名を派遣。成績は男子団体戦3勝、女子団体戦1勝2敗。

(3) アジアジュニアU19選手権2016

7月7日から18日までの12日間、タイ、バンコク市へ団長長谷川博幸他役員5名、選手男子8名、女子10名、計24名を派遣。成績は団体戦3位。女子複川島美南・上杉夏美組3位。

(4) 日・韓・中ジュニア交流競技会

8月23日から29日までの7日間、中国、浙江省寧波市へ代表樽島博幸他役員2名、選手男子6名、女子6名、計15名を派遣。成績は男子団体戦3敗、女子団体戦1勝2敗。

(5) 第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)バドミントン競技

7月30日から8月24日までの26日間、ブラジル、リオデジャネイロ市へ監督朴柱奉他役員4名、選手男4名女5名、支援スタッフ4名計18名を派遣。成績は女子複高橋礼華・松友美佐紀組優勝、女子単奥原希望3位。

(6) 第14回世界学生バドミントン選手権大会

9月10日から20日までの11日間、ロシア、ラメンスコエ市へ団長宮崎重勝他役員3名、選手男女各6名、計16名を派遣。成績は女子単杉野文保優勝。

(7) 2016世界ジュニアバドミントン選手権大会

10月30日から11月15日までの17日間、スペイン、ビルバオ市へ団長田部井秀郎他役員6名、選手男子8名、女子10名、計25名を派遣。成績は団体戦3位、女子単大家夏稀準優勝、女子複保原彩夏・松山奈未組優勝。

(8) アジア混合団体選手権

2月13日から20日までの8日間、ベトナム、ホーチミン市へ団長上松芳則他役員7名、選手男女各8名、計24名を派遣。成績は団体優勝。

(9) 台北ジュニア

日程調整がつかず未実施。

7. バドミントンの競技力の向上

(1) スポーツ医科学研究

バドミントン選手の合宿時のエネルギー消費量測定と体組成測定を実施し、国際競技力向上のためのメディカルサポートシステム、トレーニング対策やメカニズムを明確にしていくとともに、競技者のコンディション評価に役立てた。

(2) アンチドーピング対策

JADA(公益財団法人日本アンチドーピング機構)との協力により「日本ドーピング防止規程」によりドーピング検査を実施し、アンチドーピング対策を実施した。また、各種大会においてアンチドーピング啓発に努めた。

(3) 選手強化

本年度は、リオデジャネイロオリンピックでのメダル獲得を重点目標として、ナショナルトレーニングセンターの有効活用や、国際大会への派遣を行い、ナショナルチームのより一層の選手強化を図った。結果として、リオデジャネイロオリンピックでは、日本バドミントン協会初となる女子ダブルスで金メダル、女子シングルスで銅メダル等、好成績をあげた。また、ジュニア層においても小中高一貫指導により競技力向上を図り、次代のオリンピック、世界選手権大会等に備え、有望選手を発掘し、合宿及び小中高の海外交流を実施、国際大会に派遣する等選手強化体制の充実を図り、世界ジュニアバドミントン選手権大会女子ダブルス優勝等好成績を上げた。

(4) 競技用具補助

競技技術の向上を図るため国際競技会出場選手112名に対し、競技用具を補助した。